

資本主義市場経済における規制のあり方

18.8.10 園山

国民経済システムの手足をコントロールする権限しか与えられていない現在の金融庁に、国家の頭脳競争力の主力エンジンである国際資本市場投資循環拡大メカニズム創りを期待することは難しい。

- 1 現在、金融庁に求められている銀行・保険・証券会社等の金融仲介人を通じて、個別の金融取引の不正を排除し、国民経済の手足となる資金・金融・証券市場を監督管理することと、自律国家としての国益を守るために必要な国際投資循環拡大メカニズムを確立し、トータル出力をあげるための国民経済の頭脳である資本市場の公正競争メカニズムを推進し制御する機能とは基本的に異なっている。

考えてみると日本は、アメリカのように異質者を束ねて市場経済原理主義を実現する動物型自律集団を作るために、SECだけでなくFTC、FRB、IRS、FBI、CIA・・・など全国家機関が一体となって作る「頭脳型インフラメカニズム」を持たなくても、何千年もの長い間国民を守ってくれた天地の神がすべてを調整してくれていたのである。

このため日本では、すべての国家機関はそれぞれの分野のことだけを考え、あとは内部調整をするだけで暮らしてこられた。

その結果、国民経済の分野でも国家には資本主義の胴元責任者としての自覚も、胴元を守るための頭脳型インフラシステムを持つ必要性も理解されることなく、一気に国際市場経済競争の渦に巻き込まれることになった。

こうして一国の経済活動のエネルギーの源泉が水車（銀行を主役とした間接金融型資金分配システム）から原子力エネルギー（投資家と企業家が証券市場で直接結合するアメリカ型の証券市場システム）へ転換したにもかかわらず、原子力発電の原理が理解できないまま、資本主義市場経済原発に点火してしまいながら、未だにその原理・原則の解明を怠ったまま迷走を続けているのである。

日本の本丸には公平資金分配システムだけあって、国家胴元として国家資本を生かす投資メカニズムそのものがないのである。

- 2 問題は、日本のお上は個別の不正取引を排除し、クリーンで安全な「資金経済空間」を確保することに専念するだけで、グレイな国際競争空間の中でも勝ち残れるイノベーション活力を生かして競い合う産業競争力をエンジンとする国際投資循環メカニズムを確立しなければ蓄積投下資本が腐敗し、競争強者に国富が収奪され、資本主義国家としての国益が守れなくなり奴隷国家となってしまふことを忘れてしまっていることにある。

こうした中で、日本の本丸では、グレイゾーンの中で薬か麻薬かの是非を鑑識し、識別しながら収穫をあげるために必要な動物的五感力も、情報収集力も、失敗記録の蓄積も、未来・未知空間挑戦技術力を育成することも忘れられ、ひたすらクリーン空間の実現のみを求めている。

3 求められているのは、資本主義社会の中で生き抜くために必要なリスクに挑戦する「奔馬」の力であり、それをコントロールする「御者」としての国家の規制力である。その規制とは村々のクリーン空間実現のための資金経済管理・監督・規制ではない。それは、トータル出力をあげるために必要な公正競争力を高めるエンジン作りのインフラメカニズムのことであって、個別の不正取引を排除する手足規制だけのことではない。

安保とブローカー社会における手足管理規制だけに頼って、公正競争に挑戦するために必要な頭脳インフラ作りを忘れ、安全・安定のための分配秩序という麻薬に溺れて迷走する現在の日本の姿は、資本主義初期に発生した150年前のアメリカ南北戦争、中国阿片戦争当時の混乱と同じである。それは資本主義の麻薬に溺れる弱者と矛盾を克服して生きる強者との違いである。

生き残るためには、産業、投資銀行、市場経済国防機能など動物集団国家としての自立メカニズムを創りあげなければならないのである。

財政崩壊、デフレ、不良債権、少子化、弱子化、頭脳力退化という資本主義チェルノブイリ後遺症から脱出するには、原因解明→頭脳インフラメカ作り→動物集団遺伝子の育成への手順が必要とされる。・・・天地に依存し、失敗記録を持たなくても生きられる農耕社会に安住し、頭脳失敗原因解明を避け、専ら手足の不正を排除しクリーン養老院作りに励むだけでは、明日の日本に必要な動物頭脳力は確実に退化し衰退してしまうのである。

資金取引経済管理システムに頼るだけでは資本主義市場経済を推進し制御することはできないのである。

以 上